

野村證券  
フィデューシャリー・マネジメント部  
木須 貴司

### 確定拠出年金専用ファンドの動向(2018年6月)

2018年度第1四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は5兆1,456億円となり、資金流入と円安の影響を受け、5兆円を上回りました。収益率をみると海外債券型以外はプラスの収益率となりました。資金流出入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体で、この四半期で1,624億円が流入しています。分類別には、マルチアセット型運用に751億円が流入しました。

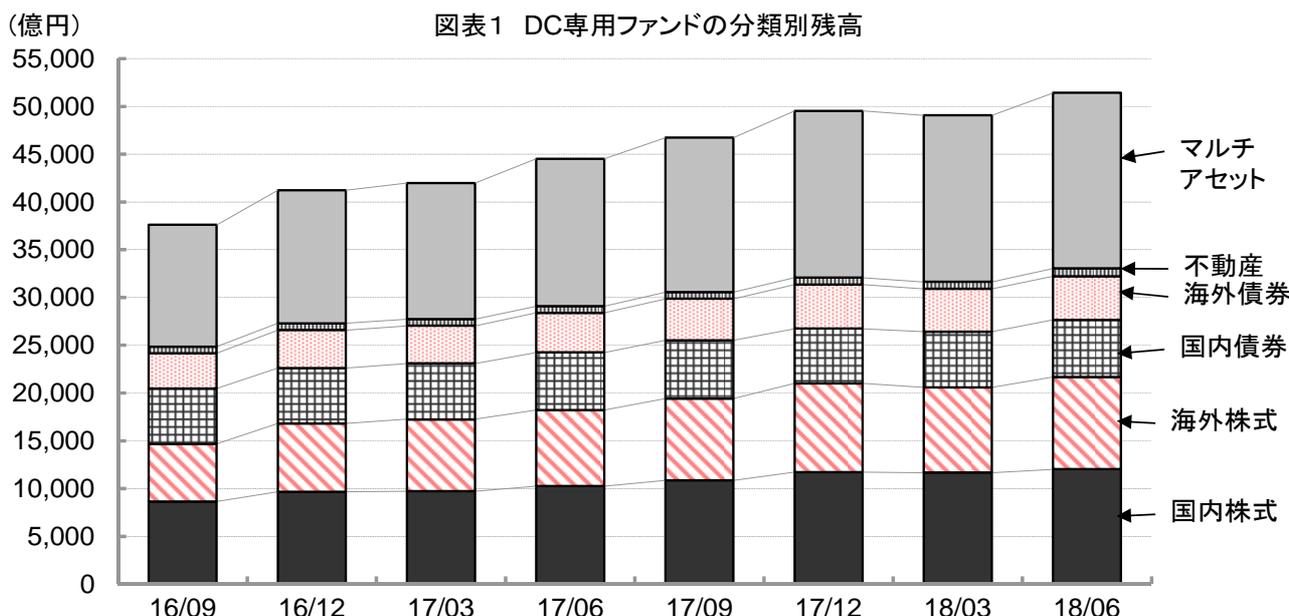
#### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2018年度第1四半期(4月～6月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は5兆1,456億円と、資金流入と円安の影響により5兆円を上回りました(図表1)。

収益率がマイナスであった分類でも資金流入により残高が増加しています(図表2)。その中で

も増加額が多いのは、マルチアセット型や海外株式型で、それぞれ944億円、725億円増加しています。

分類別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の35.7%を占めています。マルチアセット型は、主にバランス型が中心となっています。



出所)NRI Fundmarkより野村證券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村證券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村證券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ42.3%、21.4%となり、前の四半期に比べて、前者は0.4%減少、後者は0.2%増加しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、35.0%であり、前四半期に比べ0.6%減少しています。一方、海外資産を中心に運用するファンドは、前四半期から0.3%増加し、

27.6%となっています。今四半期は円が対ドルに対して円安となったため、その影響と考えられます。

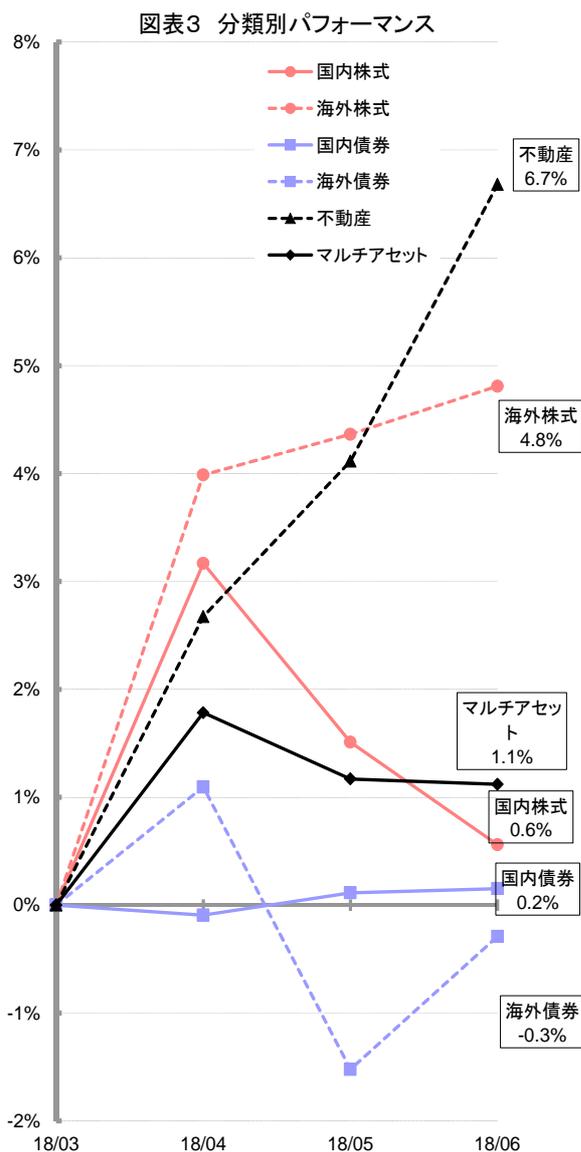
さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は74.6%となり、依然として4分の3近くを占めています。

図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	16/09	16/12	17/03	17/06	17/09	17/12	18/03	18/06
国内株式	8,661	9,671	9,729	10,258	10,861	11,715	11,681	12,030
アクティブ運用	3,211	3,596	3,629	3,833	4,104	4,490	4,484	4,590
パッシブ運用	5,451	6,074	6,100	6,425	6,757	7,226	7,197	7,440
海外株式	6,033	7,148	7,520	7,976	8,553	9,304	8,921	9,646
アクティブ運用	1,375	1,597	1,676	1,782	1,897	2,113	2,018	2,175
パッシブ運用	4,658	5,551	5,844	6,194	6,656	7,191	6,903	7,471
国内債券	5,795	5,787	5,858	6,017	6,113	5,719	5,821	5,988
アクティブ運用	849	845	844	857	864	867	878	896
パッシブ運用	4,946	4,943	5,013	5,160	5,249	4,852	4,943	5,092
海外債券	3,691	3,994	3,931	4,156	4,332	4,611	4,487	4,566
アクティブ運用	497	524	510	527	538	547	523	525
パッシブ運用	3,194	3,469	3,420	3,628	3,794	4,064	3,965	4,041
不動産	680	705	694	690	698	735	737	818
マルチアセット	12,750	13,928	14,246	15,441	16,177	17,456	17,424	18,369
バランス型	11,399	12,481	12,735	13,502	14,134	15,033	14,928	15,642
ターゲットイヤー型	217	234	236	251	264	463	465	486
アセットアロケーション型	1,134	1,213	1,275	1,687	1,780	1,959	2,031	2,240
残高合計	37,645	41,272	42,017	44,580	46,775	49,583	49,110	51,456
残高割合								
国内株式	23.0%	23.4%	23.2%	23.0%	23.2%	23.6%	23.8%	23.4%
海外株式	16.0%	17.3%	17.9%	17.9%	18.3%	18.8%	18.2%	18.7%
国内債券	15.4%	14.0%	13.9%	13.5%	13.1%	11.5%	11.9%	11.6%
海外債券	9.8%	9.7%	9.4%	9.3%	9.3%	9.3%	9.1%	8.9%
不動産	1.8%	1.7%	1.7%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.6%
マルチアセット	33.9%	33.7%	33.9%	34.6%	34.6%	35.2%	35.5%	35.7%

注)一部、DC専用ファンドの定義を見直したため、過日のデータを変更しています  
出所)NRI Fundmarkより野村證券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村證券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村證券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

### 分類別パフォーマンスの推移

図表3は2018年度第1四半期におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この四半期は、米国の堅調な景気指標と米国の利上げ期待の高まりから、ドルが上昇しました。その結果、対ドルで円安が進み、国内株式や海外株式は上昇しました。

ただし、海外株式は、米国の堅調な景気と円安の影響を受けて、現地通貨ベースでも緩やかな上昇が続きました一方、国内株式4月は上昇したものの、その後は引き続き貿易戦争の懸念などから下落に転じました。

国内債券市場は、金利に大きな変化はなく、わずかにプラスの収益率となりました。

マルチアセット型についてもリスク性資産の上昇の影響を受け、1.1%とプラスの収益率となりました。

国内不動産(REIT)は、市場全体に資金流入が続き、+6.7%と相対的に大きく上昇しました。

### 分類別資金純流入額の推移

図表4は、2017年度第1四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額一解約額)の推移を表したものです。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	17/04~ 17/06	17/07~ 17/09	17/10~ 17/12	18/01~ 18/03	18/04~ 18/06
国内株式	-108	67	188	520	291
海外株式	153	175	246	281	300
国内債券	161	87	86	82	158
海外債券	77	75	68	75	92
不動産	12	12	8	10	32
マルチアセット	759	341	467	522	751
資金純流入合計	1,055	758	1,064	1,488	1,624

注)一部、DC専用ファンドの定義を見直したため、過日のデータを変更しています  
出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

第4四半期)に比べると<sup>1</sup>、569億円増加し、1,624億円となりました。この金額は過去の資金流入額と比べると相対的に高水準でした。

また、分類別に資金流入額をみると、目立つのが751億円流入したマルチアセット型です。5月・6月に300億円以上の資金流入となり、改正DC法の施行を受けた可能性があります。

— 次号のお知らせ —

次号は

**8月27日(月)**

発行予定です。

<sup>1</sup> 資金流入額には季節性があると考えられるため、前年同期と比較しています。

#### 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

#### 野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号  
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981

Email: [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。